



県南地域の環境活動に取り組む企業、環境団体、行政の情報をお届けします!!

## ■環境交流セミナー開催結果報告

去る3月6日（金）、水沢グランドホテルにて環境交流セミナーを開催しました。セミナーには、一般、環境団体、企業及び行政などから90名を超える参加をいただき、盛会のうちに終了することが出来ました。本号では、当日の様子についてご報告します。

### ・県南広域振興局環境大賞表彰式と受賞企業の環境取り組み発表

今年度の県南広域振興局環境大賞は、第4号でお知らせしたとおり、北上製紙株式会社、工藤建設株式会社、株式会社デンソー岩手の3社が受賞しました。

表彰式では、遠藤局長より表彰状と副賞の秀衡塗菓子皿を贈呈しました。これに続き、大賞受賞企業より環境取り組みを発表して頂きましたが、各社ともそれぞれの特徴を生かした素晴らしい内容で、アンケートでも「自社の環境保全活動に取り入れたい」、「非常に参考になった」など、大きな反響がありました。



### ・環境活動連携交流会

セミナー休憩時間を活用し、環境団体と企業、行政の環境取り組みについての情報交換会を行いました。会場に設置されたポスターやリーフレットの展示コーナー前では、コーヒーを飲みながら、和やかな交流の輪が広がっていました。なお、展示にご協力いただいた団体、企業は下記のとおりです。



奥州市、NPO 法人日本 NPO センター、NPO 法人カリタス釜石、久保川イーハートーブ自然再生研究所、(一社)地域活性化センター、NPO 法人 HARP、NPO 法人女わざ、NPO 法人高齢者福祉サポートセンター、NPO 法人 IT 工房ひのき、NPO 法人りあすの森、ふるさとサポート隊森の巣、大曲の水辺に夢をつくろう会、ホテルの里づくり、ホテルの里づくり実行委員会、コンパクトシティ水沢、(株)スパット北上 他

### ・講演 岩手大学人文社会科学部准教授 塚本善弘先生

〈企業-NPO〉連携・協働による環境保全—“Win - Win の関係” 実現に向けて—と題し、岩手大学塚本善弘先生にご講演いただきました。

企業・NPO 間で協働連携が取り組まれるようになった背景やその意義、企業・NPO が協働することで、地域の環境問題の解決・改善のみならず、それ以外の地域住民の環境保全への参加機会の増加や地域の活性化など、メリットが大きいとお話の後、協働事例としてトヨタマーケティングジャパンと



一般財団法人 いわて流域ネットワークの「AQUA SOCIAL FES みんなの北上川流域再生

プロジェクト」他、3 事例をご紹介いただきました。( <http://www.iwate-ryuiki.net/> )

企業側も NPO 側もそれぞれ協働連携に関する関心が高いにも拘らず、実際に協働した事例が少ないのは、どこでだれがどんな活動をしているかなど、情報や出会いの場がないことが原因の一つであり、これを改善するためには、NPO 中間支援組織や行政、経済団体等からの情報提供や出会いの場、協働の仕組み作りが重要であること、また、協働の形や目的はケースバイケースなので、まずは企業、NPO が互いに協働の意義を認識した上で、協働活動の目的や目指すものを明確にし、担当者同士が“顔の見える” 個人的信頼関係を築きながら徐々に連携した活動を深めていくことが大事である、と締めくくられました。

### ・協働連携の事例発表 生母生産森林組合 大石喜清氏



県南地域における企業と環境団体の協働事例発表として、生母生産森林組合（以後生森組合と略）といわて生活協同組合（以後いわて生協と略）による「コープの森 in まえさわ生母イロハモミジの森づくり」の活動を特別顧問の大石喜清氏にご発表頂きました。

生森組合は、これまで赤生津小学校と母体小学校の児童と共に、卒業記念としてイロハモミジを植樹し、奥州市前沢区生母で森づくりを行ってきました。しかし、両校が前沢小学校へ統廃合されることになり、平成 25 年度をもって、最後の卒業記念植樹となってしまいました。

地域の大切な宝であるイロハモミジの森づくりを継続したい生森組合と、いわて生協とが意気投合し、いわて生協が今後の森づくりを引き継ぐこととして、協定を結ぶことになりました。

事例発表では生森組合がいわて生協と協定を結ぶまでの経緯や、大前提として「イロハモミジの森づくりなのだから、植樹をしてきた生森組合の想い入れを引き継いでほしい」ということをしっかり話し合い、お互いが合意形成したこと、お互いの問題・懸念事項は素早く検討し、前向きに解決する、気配り、思いやりを忘れないこと、また、企業との協働を行う上で、行政に仲立ちして頂いたことでスムーズに協定を結べたことなど、経験を踏まえた協働を行う上でのポイントをご発表頂きました。



## ■環境活動団体のご紹介

### ・千厩川にサケをよぶ会（一関市千厩町）

昭和 13 年、国道 284 号線整備のため、川の蛇行を人工的に短絡させたところ、5m もの滝（通称「色の御前滝」）が出現しました。しかし、人工の滝が出来たことにより、里山と海の間を行き来する生き物たちの行動が阻まれてしまいました。

千厩川にサケをよぶ会は、自然環境を守りたいという有志により結成され、「砂鉄川鮭鱒増殖組合」及び市の協力のもと、保育園児によるサケの稚魚放流や、色の御前滝で遡上を阻まれるサケを捕獲し上流に再放流する「サケの移動大作戦」を実施しています。

同会では、サケだけではなく水生生物が自力で上流・下流に往来出来るよう、魚道設置の要望活動を行っています。

この他、地域の方々との河川清掃「元気再生大作戦」や、中学生と一緒に源流に苗木の植樹する「どんぐりの森づくり」、小学生と水生生物調査を行う「キッズ探検隊」などのイベントも行な

っており、これらの取組みを新聞などで県内外や地域住民に発信してきました。

ゴミや汚水を出来るだけ出さない、あるいは処理してから排水するなど、河川を汚すことのないよう、年間を通して啓蒙活動することが、ふるさとの美しい自然を次世代の子供達へ残すことにつながるという信念のもと、活動しています。



サケ捕獲の様子



捕獲したサケは滝の上流へ放流



魚道設置の要望書提出の様子

連絡先 会長 阿部永宏 Tel 0197-32-2001

### ・大瀬川たろし滝測定保存会（花巻市石鳥谷町）

たろし滝は、沢水が崖から流れ落ちる際に、寒さによって凍りつき氷柱となったもので、地元の人たちは、この氷柱の太さでその年の作柄を占っています。

歴史をたどれば、文治の役（奥州合戦）で鎌倉政権に敗れた平泉藤原氏は、事前に女性、若者、子供、年寄りを中心に平泉から逃がしたといえます。岩手の沿岸から青森を経て、長い逃亡の末に葛丸川上流部の隠れ里で暮らし始めた一族は、たろし滝の氷柱の大きさとその年の作柄を占うことを子孫に伝えてきました。この隠れ里は葛丸川の上流にダムが出来た時点で湖底に沈んでしまいましたが、引っ越してきた隠れ里の子孫に当たる人から、滝の話聞いたことが活動の始まりとなりました。

昭和50年から有志で測定を開始し、昭和53年に計測した氷柱の、高さ13m・胴回り8m  
たろし滝（花巻市石鳥谷町）  
がこれまでの最高値となっています。



写真提供：花巻市観光課

氷柱は太いほど豊作になると言われていますが、平成5年には氷柱が出来ず、この年は暖冬冷夏により凶作となりました。このことから、今後100年、200年と測定して記録し保存するべきだと、平成8年に保存会を設立し、現在の会員は132人。若い世代を取り込んで活動を続けています。

測定日は毎年祝日の2月11日に決めており、この日には、地元だけでなく全国各地から200人ほどの見物客が集まります。

行事の一環として、神楽の奉納や、見物客へのおふるまい（ひっつみ汁や甘酒）を行い、地域おこしにもつながっているほか、測定情報

を大学や気象庁に提供しています。

また、大瀬川地区は宮澤賢治とのつながりが深く、賢治作の詩が多く残されている場所で、何よりも賢治から直接農業指導を受けた住民が父祖の世代に多くいて、それが今でも大切にされている地域です。

連絡先 / 会長 板垣 寛 電話 / 080-5229-0727

## ■環境これナニ情報

\*\*\*\*\*やってみませんか？エコで安心、お財布にもやさしいエコドライブ\*\*\*\*\*

前出の大瀬川たろし滝測定保存会の活動ですが、昨年に引き続き、今年も氷柱が崩落して計測不能となったそうです。この頃冬がずいぶん暖かいなあ、という印象をお持ちの方も多いと思いますが、仙台管区气象台と函館海洋气象台が作成した資料によると、県内でも年間平均気温が上昇傾向で、特に冬季（12～2月）の上昇率が大きいそうです。盛岡市で観測したデータでは、直近100年間の気温変化率が+2.3度となっています。（東北地方の気象の変化

[http://www.jma-net.go.jp/sendai/wadai/kikouhenka/4\\_4\\_3lwate.pdf](http://www.jma-net.go.jp/sendai/wadai/kikouhenka/4_4_3lwate.pdf) 参照)

地球温暖化防止対策として人間の社会活動から排出されるCO<sub>2</sub>を削減するため、産業部門、家庭部門それぞれに取り組んでいただいておりますが、公共交通機関を利用する、エコドライブを実施するなど、運輸部門に関する取り組みも大きな効果があると考えられます。

ちなみに岩手県では、運輸部門の2010年のCO<sub>2</sub>排出結果が全体の2.2%程度となっており、基準年となる1990年と比較して微増という結果になりました。



まずは県職員から実践ということで、職員向け講習と公用車へのエコドライブステッカー添付を行いました。

エコドライブの実践で、平均10数%程度燃費改善することができ、ガソリンの使用量とCO<sub>2</sub>排出量の削減に繋がります。また、エコドライブは急発進、急停止をしないゆったり運転が基本なので、事故防止の効果も。

なお、県南広域振興局では、平成27年度、世界遺産平泉PRキャラクター「ケロ平」をあしらったエコドライブステッカーを作成し、エコドライブ推進事業を実施する予定です。

エコで安心、お財布にもやさしいエコドライブ、皆さんも取り組んでみませんか？

## ■編集後記

企業や環境団体、行政が取り組む環境活動を情報発信し、それぞれが「つながる」きっかけになることを目指してきた「県南広域振興局 環境かわら版」も、本号で今年度最後の発行となりました。初めは取材も紙面作成もまるきりの手探り状態でどうなることかと思いましたが、取材にご協力いただいた企業、団体の皆様のお力添えで、何とか目標の発行回数を達成することが出来ました。この場をお借りしてお礼申し上げます。また、取材を通じて色々な出会いがあり、実は担当自身が一番勉強になったな～と思っている次第です（笑）

かわら版は今後も継続発行しますので、より充実した内容としていけるよう、関係の皆様には、今後ともご協力よろしくお願いいたします。（県南広域振興局 担当 伊藤朋子）

中間支援の仕事は、情報収集から始まります。今回は、念願であった企業の環境取り組みも取材でき、それを市民活動団体（以下NPOと記載）に伝えていくことが出来ました。26年の「環境コミュニケーション報告会」にはNPOから参加の希望があり、NPOが企業の環境活動を理解するよいきっかけづくりが出来たと思っています。NPOの取材も一関地域、胆江地域、花北西和賀地域と結構広いエリアを訪問することが出来ました。地域内や現代の環境課題に取り組んでいる皆さんから、本当にたくさんのお話を伺うことが出来ました。マガジンに掲載されているのは、ページ数の都合もありほんの一部の要点になってしまっただけで申し訳なく思っています。ご協力いただいた皆様、本当にありがとうございました。（このマガジン取材は次年度もある予定のようなのでとても楽しみです。）

（特定非営利活動法人奥州・いわてNPOネット 菅原恵子）

発行：県南広域振興局保健福祉環境部【環境衛生課 伊藤】、NPO法人奥州・いわてNPOネット

ご意見・ご要望・取り上げて欲しい情報などありましたら、下記連絡先まで！！

TEL 0197-22-2831（内線280） FAX 0197-22-4106 メールアドレス BD0003@pref.iwate.jp